

海外保育者のキャリア形成と 適応力に関する研究

＜研究者＞梅谷千代子(代表)、渡部晃正、荒井庸子、走井洋一
山田恵美、菱田隆昭

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構
プロジェクト研究助成費

社会人文学会
Japan Society for the Studies in Humanities and Society
第21回大会プログラム

2023年9月9日(土)

●会場 ●アルカディア市の私学会館 7F 吉祥
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

●大会事務局 ●〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1
明星大学薬師館本部研究室受付
TEL 090(1386)2203 (事務局 経費)
E-mail: shakaijinbun@yahoo.co.jp

海外の日本人幼稚園における保育者のキャリア形成と資質・能力

梅谷 千代子(東京家政大学)
菱田 隆昭(和洋女子大学)

目的

海外で働く日本人保育者のキャリア形成とそこで求められる資質・能力について明らかにする。
多様な文化に適応でき、同時に日本の文化を継承できる保育者の養成について考える。

研究方法

- 保育者に対象を絞って進めていく。
- シンガポールと英国ロンドンの日系幼稚園に勤務する保育者に対し、海外勤務の動機、現地の労働環境、国内と異なる保育者に求められる資質・能力について聞き取り調査を行う。

これにより、海外の保育施設に勤務する保育者のキャリア形成過程、現地で必要とされるスキルやメンタル的な資質などの端緒を明らかにすることが期待できる。

インタビュー 対象者

Chatsworth Preschool	副園長1名、保育者1名	Eis Preschool East校	保育者4名
Eis Preschool West校	副園長1名、保育者1名	日本人幼稚園(JK)	園長1名、保育者5名

主な回答

- 海外で働く保育者の経歴は、人それぞれで、なかなか共通点が見つからない。
- 日本の保育者養成校で学んだことは、とても役立っている。
- 英語力は、できる人とほとんどできない人の二極化。
- 資質・能力が多かったのが、柔軟性、違いを楽しむことができる力
- 将来について、このままここで、他の外国の園もみてみたい、日本に帰ってなじめない子どもの力になりたい。
- 治安の良さ、親の理解を得やすい国であった。

今後の課題

- 今回のシンガポール現地調査、英国日系幼稚園の現地調査でのデータを分析、考察する。
- その知見を現在日本で進む教育改革を考える一助とする。
- 海外の保育現場、教育現場で行われている異文化理解教育と対になる伝統文化に関する教育を探る。

目的

海外の幼児教育・保育施設で働く日本人保育者(以下、海外保育者と称する)が、どのような経緯により海外で働くようになり、現地で適応し、自らの保育を実践しているのかを明らかにすることである。

本発表では、シンガポールにおける海外保育者に対するインタビュー調査の結果を分析・考察し、海外保育者の資質形成の端緒について報告する。

研究の方法

シンガポールにて、海外保育者を対象とした構造化インタビューを実施(一人30分~1時間)。

質問はⅠ.基本属性、Ⅱ.海外勤務前の状況(海外園勤務のきっかけ・動機、準備したこと、外国語能力など)、Ⅲ.海外勤務の状況(現地での適応、保育内容・方法及び環境など)、Ⅳ.海外保育者に必要な資質・能力、Ⅴ.海外で保育をすることについての自由意見の5項目。

本発表では、とくに海外保育者自身が語る「海外保育者に必要と思われる資質・能力」と「海外で保育をすることについて」を中心に報告する。

日本の幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方又はどちらか一つを保持している。
元々、外国の文化、生活、教育などに興味を持っていた

日本とシンガポールの文化・（現地スタッフとの）保育観の違い、多様な言語環境、日本と
現地の自然環境の違い、伝統行事の多さが指摘されている。

海外保育者として必要な資質・能力については、コミュニケーション能力と柔軟性、対応力、
健康・体力などが指摘されている。

考察

海外保育者に求められる資質や能力は、その国の文化、言語、自然環境との関わりから、コミュニケーション
能力、柔軟性、対応力、健康・体力などの要素が重要であることが明らかになった。

一方で、日本の園で身につけた保育方法を、現地で適応・応用している姿も浮かび上がってきた。

海外保育者の位置づけとして、日本の子どもが帰国したときに困らないようにしたいという姿勢で保育に取り
組んでいる者が多いことが把握された。

全体のまとめと今後の課題

シンガポールで実施したインタビューから、海外保育者の資質形成に関連するキーワードを抽出した。ただし、各個人のキャリア形成は異なるため、これらのキーワードがどのような文脈で使用されたかを理解するにはさらなる分析が必要である。

今後、シンガポール以外の国の海外保育者の資質形成プロセスを理解することで、海外での保育者に必要なスキルや資質がより明確になると考えている。さらに、これらから得られた知見をグローバルな保育者養成に結びつけることも重要な課題であるといえる。